

1. 授業の概要(ねらい)

普段、何げなく見ている作品であっても、自分では気づかない作り手の工夫が数多くある。また、過去のさまざまなジャンルの作品を参考にしていたり、同時代の日本社会の在り方をも反映している。日本を代表する作品をセレクトした上で、日本のマンガ・アニメーションの独創性について考えていく。

2. 授業の到達目標

1. 日本文化という視点からマンガとアニメーションを分析して、作品や時代背景などに関する専門的な知識を身につける
2. 海外の作品と比較することで、日本文化としてのマンガやアニメーションについて考えられるようにする

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート40%、平常点(毎回のリアクションペーパー)60%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書:なし

参考文献

山田奨治編著 『マンガ・アニメで論文・レポートを書く 「好き」を学問にする方法』(2017) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

次回に取り上げる作者もしくは作品について、当時の社会的・政治的な出来事を図書館やネットを使って調べ、時代背景を把握したうえで授業に臨むこと。

授業内で取り上げた作品は、授業後で視聴しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

- ・映像の著作権等の関係から、授業内容が一部変更になる場合もあります。
- ・第15回目のオンライン回の実施日については、授業内で別途指示します。

7. 授業内容

- 【第1回】 日本文化としてのマンガ・アニメーションとは
- 【第2回】 人形アニメーションの世界
- 【第3回】 海外での人形アニメーション ー特撮との関連性から
- 【第4回】 多摩とアニメーション① ー近藤喜文『耳をすませば』
- 【第5回】 多摩とアニメーション② ー高畑勲『平成狸合戦ぽんぽこ』
- 【第6回】 海外との比較① ーカナダのアニメーション
- 【第7回】 新房昭之の世界
- 【第8回】 新海誠① ー自主制作からプロへの転身
- 【第9回】 新海誠② ー短編作品と長編作品にみる法則性
- 【第10回】 片淵須直『この世界の片隅に』 ーロケハンによる作品作り
- 【第11回】 細田守 ー『時をかける少女』に至るまで
- 【第12回】 アート・アニメーション
- 【第13回】 海外との比較② ーロシアのアニメーション
- 【第14回】 加藤久仁夫『つみきのいえ』 ーアニメーションにおける言葉とは
- 【第15回】 (オンライン回)日本文化として考え直すマンガとアニメーション